

血液中抗がん薬濃度を用いた患者個別化治療法の確立



三浦 昌朋

Masatomo Miura

教授 博士（薬学）

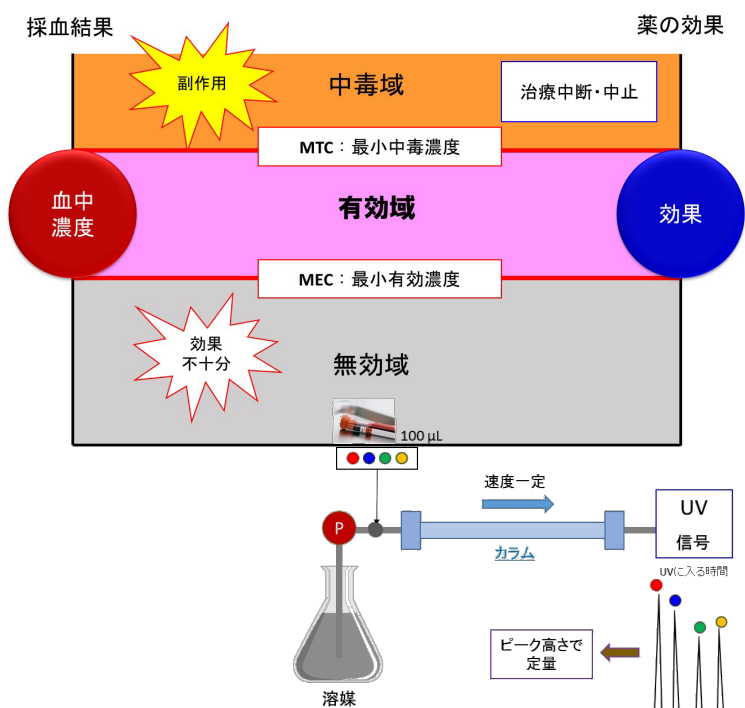
大学院医学系研究科 医学専攻 病態制御医学系
薬物動態学講座

研究キーワード

分子標的抗がん薬治療、血液中濃度、個別化医療、分析化学

研究概要

健康診断時の検査値に正常範囲があるように、血液中の薬の濃度にも適切な範囲があります。値が低いと十分に薬の効果が発揮できず、高いと副作用が出現します。特に抗がん薬のように毒性が強い場合、一度、重篤な副作用が発現しますと、その後の薬の使用は困難になり、他の治療選択もなくなります。有効かつ安全に薬を使用するために、血液中の薬の濃度を測定することが重要です。私たちは、分析機器を使って薬の濃度を測定し、患者さんの身体に合った薬の投与量を決めています。誰でも簡単に測定できる機器の開発が医療現場では求められています。



予想される応用例

薬物血中濃度測定機器

産業界へのアピールポイント

医師・患者からの測定ニーズが高く、
全国から測定依頼があります